

中部支部野外観察会の報告：
安倍川・静岡平野の観察

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-06-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 櫻井, 美津夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025221

中部支部野外観察会の報告

～安倍川・静岡平野の観察～

櫻井美津夫*

1996年2月10日(土)、長島 昭会員を講師に、中部支部の巡検会が開催された。好天に恵まれ、また、今回は身近な自然、地形観察ということで、家族連れや、中学生も参加し、なごやかな雰囲気の中、充実した一日となった。

集合場所の駿府異櫓前で、長島会員から静岡平野の成り立ちについての説明があった。静岡平野は安倍川の扇状地で、その要(かなめ)が浅間神社付近にあり、ここから周辺へ扇状に砂礫が堆積したため、赤鳥居の標高が30m、すぐ北側の石鳥居付近では標高は25m、南方の静岡駅周辺では17.4mと扇状地は赤鳥居を中心として南方へも北方へも周囲へ低くなる。扇状地の末端に浅畑沼が形成されたこと、鯨ヶ池から桜峠トンネルを抜けて麻機へ出ると、その高度差が約50mもあり、この落差を利用して、水力発電を検討したことがあったことなど、興味深い話が聞けた。以下、主な観察地点についてその概要を報告する。

1. 浅間神社：神社の前の水路の流れが北向きで流速も速いことから、扇状地の地形を実感できる。この流れは喜久屋(太田道灌の庭で有名)前で暗渠となり、安東地区で地表に表れ、十二双川となり、巴川に合流する。

2. 麻機遊水池：低湿地で、標高わずか7mにすぎない。大雨になると昔から洪水の被害を受けていた地域で、昭和49年7月7日の七夕豪雨でも、この付近一帯は水没した。明治の頃には南北1km、東西500mの大きな沼であったが、都市化に伴い沼沢地失われ、遊水池となって残っている。この地域が低いのは、最近地質時代の沈降地域にあることにも関係し、付近の建物は少しずつ沈降しているようである。高圧線の鉄塔建設では20mも掘り下げ、土砂、礫を埋めるような難工事であった。

3. 櫻峠東側：この付近を糸魚川-静岡構造線が通り、断層地形のケルンコル、ケルンバットが観察できる。

4. 松野の河岸段丘：地理の教科書によく写真がのっている河岸段丘が安倍川では各所で観察できる。牛妻の集落を通り抜けて林道を進むと安倍川を挟む対岸に松野の集落をのせる河岸段丘の全貌がとらえられる。上・下の二段の平らな段丘面で、上位の段丘面にはきれいな茶畑が、集落は下段に見える。県道に戻り、郷島入口の崖で段丘礫を観察した。最大径60cmの亜角礫の砂岩、頁岩を主体とする段丘礫が防護ネットの向こうに見える。

5. 安倍河川礫の収集

安倍川狩野橋北側の川原で、安倍川で見られる河川礫の採集をした。礫種としては、砂岩、泥岩、礫岩が大部分で、あとは少量の石灰岩や輝緑岩などである。今回は長島会員の特別な好意で、すでに採集されてあったピクライト玄武岩、苦灰岩を見せてくださり、おみやげとして参加者に配られた。

* 静岡市立長田西小学校